# GLP-GEfIL

GLP-GEfIL に関するお知らせです。

## GEfIL 実践研究 PHASE1 のテーチングアシスタントを募集します。応募締切は 10 月 28 日（金）です。

GLP-GEfIL 第8期生向け、GEfIL 実践研究 PHASE1 の 2022 年度開講にあたり、ティーチング・アシスタントを募集します。募集人員は約 7 名です。

詳細は、以下の募集要項（Application Guidelines for 2022_2023 GEfIL_PHASE1 Teaching Assistant）をご覧ください。募集対象は、東京大学大学院生です。

ご希望者は以下の Application Form にご記入の上、CV を添えて以下宛先までご提出ください。締切は 10 月 28 日（金）です。

（提出先）
Prof Nanyan Guo, GLP-GEfIL Deputy Director Center for the Development of Global Leadership Education Administration Bureau Building 2, 3rd floor, Room 319, The University of Tokyo 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo 113-8654
Email: u-nanyan.guo@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

お問合せ等は、GLP 推進室までご連絡ください。（glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）

（2022/10/05）

- Application Guidelines for 2022_23 GEfIL_PHASE1 Teaching Assistant
- 2022_2023_GEfIL-PHASE1 TA Application Form

# GEfIL 実践研究

実践研究は、PHASE1 と PHASE2 から成っています。

自身が関心を持つ地球規模で生じる「現実」の問題を対象として、創造的・学際的な研究プロジェクトを設計・実施することを目標とします。

約 1 年半の主体的な学修を通じて、これまでに習得した基礎理論、分析方法、技術などを利用しながら、具体的な課題に取り組むことにより、論理的な思考による問題解決力を養います。

各学生は、ピース・ビルディング、グローバル・エコノミー＆マネジメント、グローバル・ヘルス、ダイバーシティ*、サステイナビリティの大きなテーマ群の中で、研究課題を設定し、メンターの指導や助言を得つつ、研究プロジェクトを計画から発表まで実行します。

研究プロジェクトの企画・実施のサポートや、研究の進捗や問題点等について、学生同士やメンターのフィードバックを得るため、演習、ワークショップ、中間発表を定期的に開催します。

*２０１７－２０１８年度、２０１８－２０１９年度、２０１９－２０２０年度にはダイバーシティに代わり、グローバル・エデュケーションが開講されます。
＊２０１９－２０２０年度よりグローバル・シティが開講されます。

---

## GEfIL 実践研究 PHASE1（2 年次 12 月～3 年次 5 月）

PHASE1 の主な目的は、学生が、異分野にまたがる既存の学問分野の枠を超える研究スキル、英語のコミュニケーション・プレゼンテーションスキル、およびチームワークコンピテンシーを身につけることです。 PHASE2 で自分の研究プロジェクトに着手するときに、こうしたスキルを十分に保持している必要があります。

このため、PHASE1では、プロジェクトに基づく、焦点を絞った「足場かけ支援」の学習手法を採用します。 学生がGEfIL申請書に記載した「地球規模問題」について関心のある事項に基づいて、大規模なシナリオ（ケーススタディ）が用意され、これが学生の研究プロジェクトの枠組みになります。
地球規模問題は複雑で、通常、多様な知識と価値観を併せ持つエキスパートとの間で協同する必要があるので、 PHASE1の研究プロジェクトは、同様の関心を持ちながら異なる学問分野に所属する学生たちによる学際的チームで実施します。 チームとして、また個人として、学生は企画段階から知見のプレゼンテーションまで、「現実の」研究とは何を意味するのかを経験します。 各チームは、所定のシナリオの特定側面に対する解決策を研究し、それを提案して、他のチームと自分たちの考えを互いにディベートし、有意義な協同作業を通じて、様々なエキスパートや「利害関係者」の関心事（およびコメント）を考慮します。 このプロセスを通じて、知識を養い、アジェンダを設定し、行動・研究計画を構築、実行し、効果的な学際的チームワーク作業を行い、討議およびプレゼンテーションのスキルを駆使することを経験します。

この科目は、以下の２つの要素が、一組のらせん構造のように互いに関係する仕組みになっています。
１．分野の枠を超える各研究プロジェクトにおいてよく提起される一連の基本的疑問
２．構造化されたタスクを通じて学生が一貫して獲得する研究スキル

---

## 2022-2023年度 GEfIL実践研究 PHASE1 開講日程とイベント予定（第８期履修生対象）

**過去の実践研究 PHASE1（2021～2022年度）**

**過去の実践研究 PHASE1（2020～2021年度）**

**過去の実践研究 PHASE1（2019～2020年度）**

**過去の実践研究 PHASE1（2018～2019年度）**

**過去の実践研究 PHASE1（2017～2018年度）**

- 実践研究 PHASE1 開講予定（as of 2022/09/29)

- 2022_2023 実践研究 PHASE1 暫定シラバス(as of 2022/09/29)

**2022年ー2023年の講義予定は以下の通りです。（第8期生履修生向け:2022/7/7現在）**

Workshop1　2022年12月3日（土）　13:30-17:30
Workshop2　2022年12月17日（土）　13:30-17:30
Workshop3　2023年2月11日（土）　9:30-17:00
Workshop4　2023年2月12日（日）　9:30-17:00
Workshop5　2023年4月1日（土）　13:30-17:30
Workshop6　2023年4月15日（土）　13:30-17:30
Workshop7　2023年5月20日（土）　9:00-18:00　**Final Presentation**

---

## GEfIL 実践研究 PHASE2（3年次9月～4年次5月）：

## 2021~2022年度

**過去の実践研究 PHASE2（2019-2020年度および2020-2021度）**

**過去の実践研究 PHASE2（2017-2018年度および2018-2019度）**

**過去の実践研究 PHASE2（2016～2017年度）**

---

## ピース・ビルディング　　藤原　帰一　教授

～～概要～～

どのようにすれば、武力行使で引き裂かれた世界に安定した平和をもたらすことができるのだろうか。 国際紛争と内戦を含め、現代世界において展開する武力行使を対象として取り上げ、その発生する原因を解明するとともに、紛争解決の条件、紛争後の政治秩序形成や法制度形成、さらに再発防止のための措置、そしてまだ紛争が起こっていない地域における予防外交について考えることがこの実践研究の目的である。 この実践研究においては（１）内戦と国際紛争の現状、（２）宗教と紛争、（３）民族と紛争、（４）貧困と紛争、（５）テロとテロ組織、（６）介入と占領、（７）難民支援などの基本的事項について理解を深める一方、具体的な紛争を選び、その紛争における平和構築に関して自らの研究プロジェクトを実行しなければならない。 ここでは、ただ特定の紛争について事実関係を祖述したり、あるいは特定の領域における研究のサーベイをするのではなく、そのような研究と具体的な紛争の理解を結びつけ、これまでにない新しい視点を発見することが目的である。

オリエンテーションの後、主に内戦の要因を深く理解するために、なぜ武力紛争が勃発したのか、民族と宗教の多様性がそうさせたのか、軍事力の使用を導いた経済的動機はどの程度のものかをめぐる講義・討論のセッションが三つある。それから武力紛争と内戦がもたらした結果について考える。ブレーンストーミングがあり、学生は各自に調査を行い、内戦によって生じた数々の災難（大規模な殺戮、性的暴力、追放と避難、経済とインフラの破壊など）を対象に取り上げる。学生はその災難の一部分を選択し、それの解決方法を工夫することが要求される。

このブレーンストーミングに基づき、学生は各自の研究プロジェクトを発展させていく。学生は、内戦の一側面に取り組み、もっとも広い意味での「平和実現」の提案を構築する宿題がある。学生の独立した研究プログラムであるため、クラスでは平和構築に関する討論があるが、研究のプロセスを導く資料一式を用意していない。最後のグループ・プレゼンテーションを準備する義務が

全員にある。

（授業キーワード）
平和構築　紛争処理　平和維持活動　難民支援　ナショナリズム　民族とエスニディティ
Peace building; Conflict resolution; Peace-keeping operation; refugee assistance; nationalism; nation and ethnicity

～～藤原帰一教授紹介のサイトへ～～

---

## グローバルエコノミー&マネジメント

### 新宅　純二郎教授・半田　純一特任教授

～～概要～～
世界中のどのような大舞台に立っても、その実力を余すことなく発揮できる人材の育成を目指す。　世界経済の成長点の大きな変化やその反面での不安定さの増大など、今日の大組織が直面する課題の多くは、その解決のためにグローバルな視野やその力学の理解が不可欠な時代となっている。　なかでも、企業経営を支えるイノベーションやコアコンピタンスの蓄積・活用も、もはやこうしたグローバルな力学の理解抜きには考えらない。　日本の多くのグローバル企業がどのようにこうした課題に取り組んできたか、そこでの苦闘を具体的に取り上げることを通じてこれからのグローバルエコノミーの本質を探ることに挑戦する。　そこでは、企業戦略のみならず、組織のありかた、リーダーシッ

プ、そして企業人としての生き方に至るまで新たなものが求められてくるだろう。 本授業では、参加学生の知的関心と今後の職業選択まで含めた進路についての意識を尊重し、いくつかのグループによる集中的な活動を通じて、成果の取りまとめを行う。 グローバルな視野を備えた、逞しい（経営）リーダーとして成長するための視野と姿勢を身に着けることを目標としたい。

（授業キーワード）
世界の経済勢力図、グローバル企業経営、日本の競争力、イノベーション、コアコンピタンス、（経営）リーダーとしての生き方

～～新宅純二郎教授紹介のサイトへ～～
～～半田純一特任教授紹介のサイトへ～～

---

## グローバル・ヘルス　　神馬　征峰　教授

～～概要～～
世界各地でさまざまな健康問題が生じている。世界といっても焦点は途上国。多くの途上国では、先進国で可能な疾病対策ができない。命を守れない。
2016年度日本の平均寿命は84歳、アフリカのシエラレオネでは50歳である。この格差はどこからくるのか？貧困、不十分な教育、不安定な政治。医療以外の社会・政治要因もまた格差を作り出している。健康格差を特定し、許せないとの怒りを感じつつも、冷静に格差是正の道をみいだす。それがグローバルヘルスの使命である。ただし、命を脅かしているのは病気だけではない。とりわけ途上国の人々は、災害、紛争等、多くの脅威にさらされている。これらの脅威をも克服していくための第一歩として健康づくりである。疾病だけでなく、多くの脅威の下にある個人とコミュニティの安心と安全を守る。人間の安全保障の目的でもある。本講義では、まず世界の健康格差の実情を把握する。次に移民などの特定集団における健康格差是正のため、多角的な取り組みを検

討する。最後に、健康の先にある価値を追求する。

（授業キーワード）
健康、健康格差、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康の社会的決定要因、健康の政治的決定要因、人間の安全保障

～～神馬征峰教授紹介のサイトへ～～

---

## サステイナビリティ

## 福士　謙介教授・ガスパラトス　アレクサンドロス准教授

～～概要～～
社会を構成する最も小さな単位は個人である。　その個人のサステイナビリティは、家族、地域、社会、地球それぞれのサステイナビリティに大きく依存している。　個人の生活を守ること、地域社会を守ることは地球全体のサステイナビリティが確保されていないと達成されない。　サステイナビリティは様々なスケールで達成されるべきであり、そのような考えのもと、様々な開発計画、産業活動等が実行されていくことが理想的である。　本講義では世界の様々な地域で困難に直面している環境、健康、資源、開発、人材、産業、生活、文化、教育等の様々な事象をサステイナビリティの観点から見つめ直し、

その解決策をともに考えていきたい。

（授業キーワード）
サステイナビリティ　サステイナビリティ学　持続可能性　資源　環境　社会　地球

～～福士謙介教授紹介のサイトへ～～
～～ガスパラトス　アレクサンドロス准教授紹介のサイトへ～～

---

## グローバル・シティ　吉見　俊哉教授

～概要～
今や、都市の網の目は全地球を覆っている。携帯端末や自動車、ファッション、音楽、食生活を通じ、「グローバルシティ」は「グローバル社会」とほとんど重なっているようにも見える。だが、実はそれは少し違う。都市とは第1に人々の高密の集まりで、そこには多様性の出会いがある。異なる文化的背景の人々が、都市を舞台に交渉する。第2に、都市は具体的な建物や道、広場、乗り物によって成り立つ特定の場所である。都市計画や地理構造がそこでの出来事を条件づける。第3に、それぞれの都市にはその都市固有の歴史があり、それが都市の文化的個性をかたちづくる。グローバルシティを理解することは、グローバルに結びつく多様な人々の集まりとして発展してきた具体的な都市の具体的な場所について考えることだ。その具体的な都市はどこでもいい。あなたが関心を持つグローバルシティの都心地域（downtown area）に関心を集中させよう。都心地域で起きている再開発やジェントリフィケーション、文化的流行、新しい創造-情報産業、犯罪や遊興地域、老舗商店街やスローモビリティ等について、2020年のオリンピック以降の東京都心が向かうべき道を視野に入れながらグローバルな比較を行っていく。

（授業キーワード）
～～吉見俊哉教授紹介のサイトへ～～